

まちづくりの方向性

・安心して住み続けられ魅力あるまちを目指す中で、都市計画や環境、福祉等の各方面から、公共交通の充実が求められている。
 ・中心市街地活性化に関しては、近年、各種の取組が積極的に展開、計画されている。

<上位、関連計画>

【第5次和歌山市長期総合計画（基本構想・基本計画）】

- ・安心して住み続けられる魅力あるまちづくりを目指す。
- ・コンパクトシティ実現のための施策として「公共交通体系の充実」を位置付けている。

【和歌山市都市計画マスタープラン】

- ・中心市街地や周辺拠点が交通ネットワークで結ばれることで相互に補完しあえる「多極型のコンパクトなまちづくり」を進める。

【和歌山市立地適正化計画】

- ・都市計画マスタープランを踏まえ、都市機能誘導区域、居住誘導区域を設定している。
- ・公共交通ネットワークの形成を進める。

【第3次和歌山市環境基本計画】

- ・豊かな自然と共に生きる環境にやさしいまちを目指す。
- ・まちづくり分野での取組として、公共交通の充実による自動車利用の抑制を実施している。

【和歌山市第2期SDGs未来都市計画】

- ・まちなかでのリノベーションによるまちづくりや、持続可能な海づくりなど、まち全体の「リノベーション」（＝今あるものを生かして、その価値を更に高める）に取り組み、まちなかと郊外の漁村エリア双方から持続性を高め、市全体として持続可能な社会を目指していく。

【第4次和歌山市地域福祉計画】

- ・お互いを尊重し、支えあう“元気な福祉のまち”を“参加と協働”で創出することを目指す。
- ・公共交通の充実による移動の支援を実施している。

<中心市街地活性化に向けた取組>

- ・都市再生整備計画に基づく新しいまちづくりに向けた種々の取り組みの結果、国の新しいまちづくりのモデル都市に選出された。
- ・引き続き、都市再生整備計画に基づき、和歌山市まちなかウォーカブル推進事業等を進めていく。

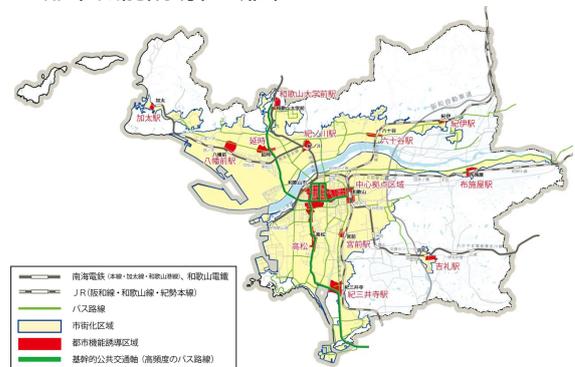
▼新しいまちづくりの取り組み

▼将来都市像

きらり輝く 元気和歌山市

- 1 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
- 2 住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
- 3 子供たちがいきいきと育つまち
- 4 誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち

▼都市機能誘導区域図



<中心市街地活性化に向けた取組>

- ・都市再生整備計画に基づく新しいまちづくりに向けた種々の取り組みの結果、国の新しいまちづくりのモデル都市に選出された。
- ・引き続き、都市再生整備計画に基づき、和歌山市まちなかウォーカブル推進事業等を進めていく。

▼新しいまちづくりの取り組み

▼まちなかウォーカブル推進事業

和歌山県和歌山市 テーマ：官民連携による稼げる空間リノベーション

市内に11団体存在する都市再生連人やまちづくりプレイヤー間の異なる連携を目的に「まちなかエリアプラットフォーム和歌山」を立ち上げ、まちなかの課題解決の検討を実施したり、公共空間・遊休不動産を空間リノベーションにてハードとソフトの両面から活用し、ウォーカブルシティの実現や新たな日常・稼げる空間を創出する。

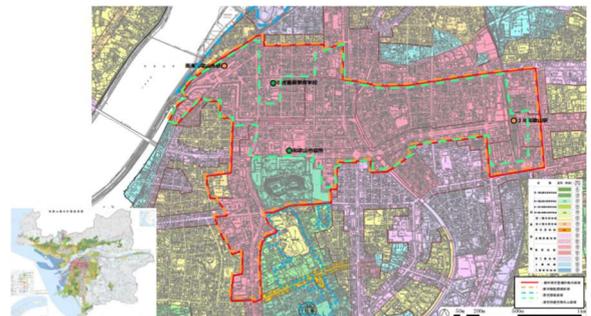
ハード事業 **ソフト事業**

「まちなかエリアプラットフォーム」を立ち上げ、まちなかの課題解決の検討を実施したり、公共空間・遊休不動産を空間リノベーションにてハードとソフトの両面から活用し、ウォーカブルシティの実現や新たな日常・稼げる空間を創出する。

目標設定

まちなかの稼働人口（就業人口と自営自雇）を目標値2500人増を目指す
 （目標値）35450人（令和5年度末）

まちなかの空家・空き店舗を活用したリノベーション件数3年度には地域16名の店舗を目標とする
 （目標値）65件（令和5年度末）
 →（目標値）16件（令和5年度末）



公共交通に求められる機能

以上を踏まえると、和歌山市において公共交通には、以下のような機能が求められる。

●市民の日常生活を支える

⇒効率的ネットワークにより、郊外部を含めた便利な移動、安心な生活を持続的に支える。

●中心市街地活性化への寄与

⇒都市再生の取組等と連携させ、中心部の回遊性や魅力を向上させる。

●地域拠点づくりへの寄与

⇒拠点を中心としたネットワークの接続、連携を強化し、各地域での人の流れや交流をつくる。

●住みよいまちづくり、健康な暮らしへの寄与

⇒環境にやさしい暮らしが可能となる移動手段の提供。

⇒公共交通を中心に、歩く生活を促す。

●観光活性化への寄与

⇒観光資源のネットワーク化。

⇒交通自体もコンテンツとした、魅力の向上。

4-1-2 求められる機能に関連する現状と課題

次に公共交通に求められる機能に対する現状と課題を以下に示す。

現状と問題点から、和歌山市の公共交通に求められる機能は、「市民の日常生活を支える」、「中心市街地の活性化への寄与」、「地域拠点づくりへの寄与」、「住みよいまちづくり、健康な暮らしへの寄与」、「観光活性化への寄与」の5つに分類され、求められる機能を踏まえた現時点における課題は以下の図のとおりとなる。

図 4-1 公共交通に求められる機能に関連する現状と課題

現状	公共交通の利用者減少や新型コロナウイルス感染症の影響や深刻な人材不足等に伴い、路線維持が困難となりつつある。	中心市街地では、再開発や大学誘致等の取り組みにより、一定のにぎわいを創出しているが、一方で、スーパー等の閉店により買い物困難者が発生している。	市内に公共交通不便地域が依然、点在しているが、 地域拠点 である各駅と結節する交通手段の導入が一部地域に留まっている。	公共交通機関の利用者はコロナ禍を契機に急減し、回復傾向にあるが、 一定数は公共交通への回帰が見込めない 状況となっている。また、自動車事故における高齢者の割合が高くなっている。	観光地間の効率的な周遊ルートの形成が十分でなく、 サイネージの設置等、観光情報の提供も一部に留まっている。
求められる機能	市民の日常生活を支える	中心市街地の活性化への寄与	地域拠点づくりへの寄与	住みよいまちづくり、健康な暮らしへの寄与	観光活性化への寄与
課題	・民間路線の支援 ・官民連携によるネットワーク形成	・中心市街地活性化と連動した公共交通活性化、回遊性向上	・地域資源や人材と連携した地域交通の確保、育成 ・新しいモビリティを活用した交通結節点の利便性向上	・地域の特性に応じた移動手段の確保 ・利用者等の意識醸成	・わかりやすさ使いやすさの向上 ・公共交通による観光回遊性の向上、活性化

4-2 和歌山市における公共交通の課題

前項で整理した現状を踏まえ、公共交通に求められる機能を確保していくには、民間路線の支援、官民連携によるネットワーク形成、地域資源や人材と連携した地域交通の確保、育成に対応していくことに加えて、中心市街地活性化の取組を活かした需要取り込み等を図っていくことで、公共交通の持続性向上や正のスパイラル創出につなげていくことが求められる。

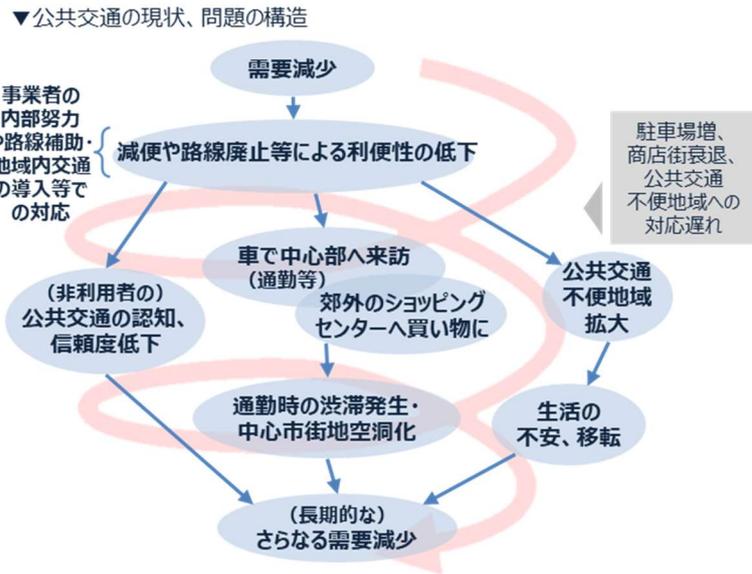


図 4-2 和歌山市の公共交通の課題

4-3 基本的な対応の考え方、戦略

4-3-1 基本理念

以上の課題を解決するために、すべての人にとって使いやすく持続的な公共交通を創出し、魅力的で住み続けられるまちづくりに貢献していくことを基本理念として取り組むものとする。

【基本理念】
すべての人にとって安心、安全、快適に利用できる
持続可能な公共交通ネットワークの構築

4-3-2 取組の方針

公共交通網形成に向けて、各課題に対応する施策を展開することが求められるが、関連施策の実施状況や課題の重要性等を踏まえて展開していく必要がある。

まず基幹ネットワークの形成、分かりやすさの向上や、中心市街地活性化の関連施策を活かした利用環境の整備や利用促進を実施する。これを踏まえ、基幹へつながる交通確保や拠点づくり、観光回遊性向上等を進めていくものとする。

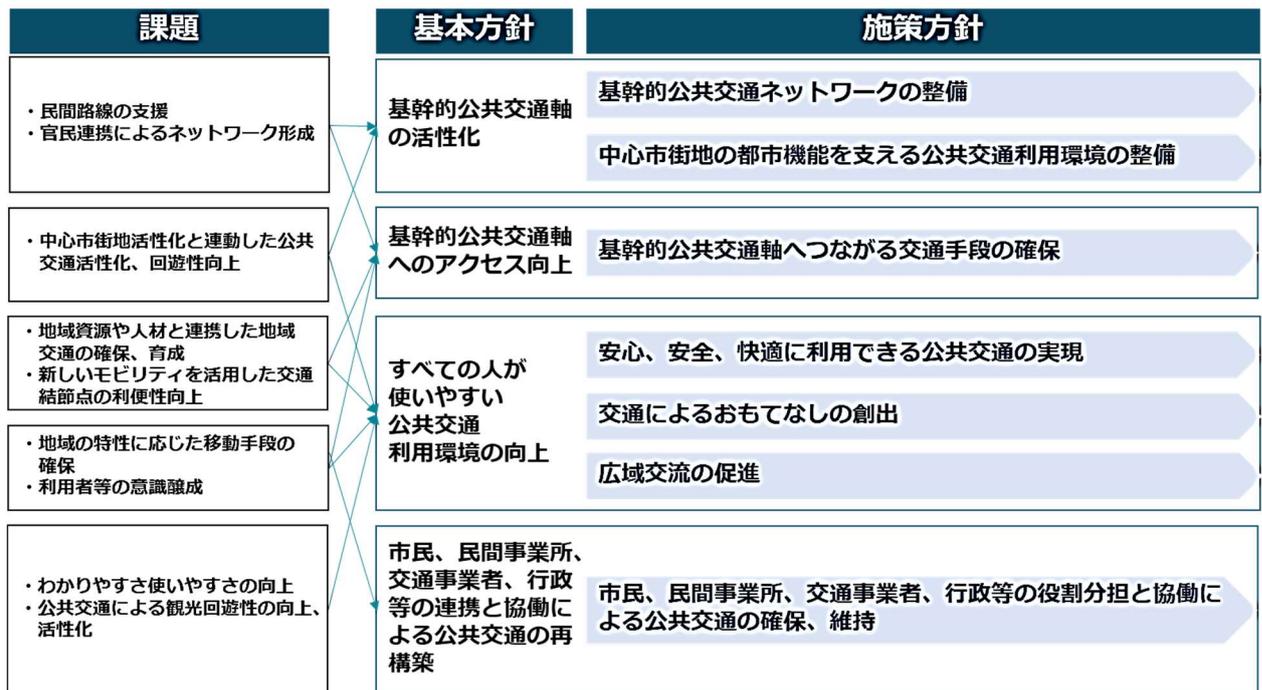


図 4-3 取組の方針

4-3-3 公共交通網の将来イメージ

前項の課題や取組方針を踏まえ、民間事業者や行政が連携して路線の仕分け、機能分担を図り、効率的で分かりやすいネットワークを形成していくものとする。

【基本的な考え方】

- ・既存のネットワークをベースとして、基幹となる公共交通軸を構築、活性化する。
- ・基幹となる公共交通軸を活かして市域全体のネットワークを構築する。
- ・市域のネットワーク構築と併せ、公共交通をすべての人が利用しやすいものとする。
- ・ネットワーク構築や、使いやすさの向上と併せて、市民や地域との連携を深め公共交通を維持、活性化する。

⇒公共交通網の将来イメージとしては、多極連携型のまちづくりと連携し、中心拠点と地域拠点を結ぶ公共交通の基幹軸の形成や拠点における交通結節機能の向上、地域の特性に応じた移動手段の確保等、便利で持続可能な公共交通ネットワークを構築していく。

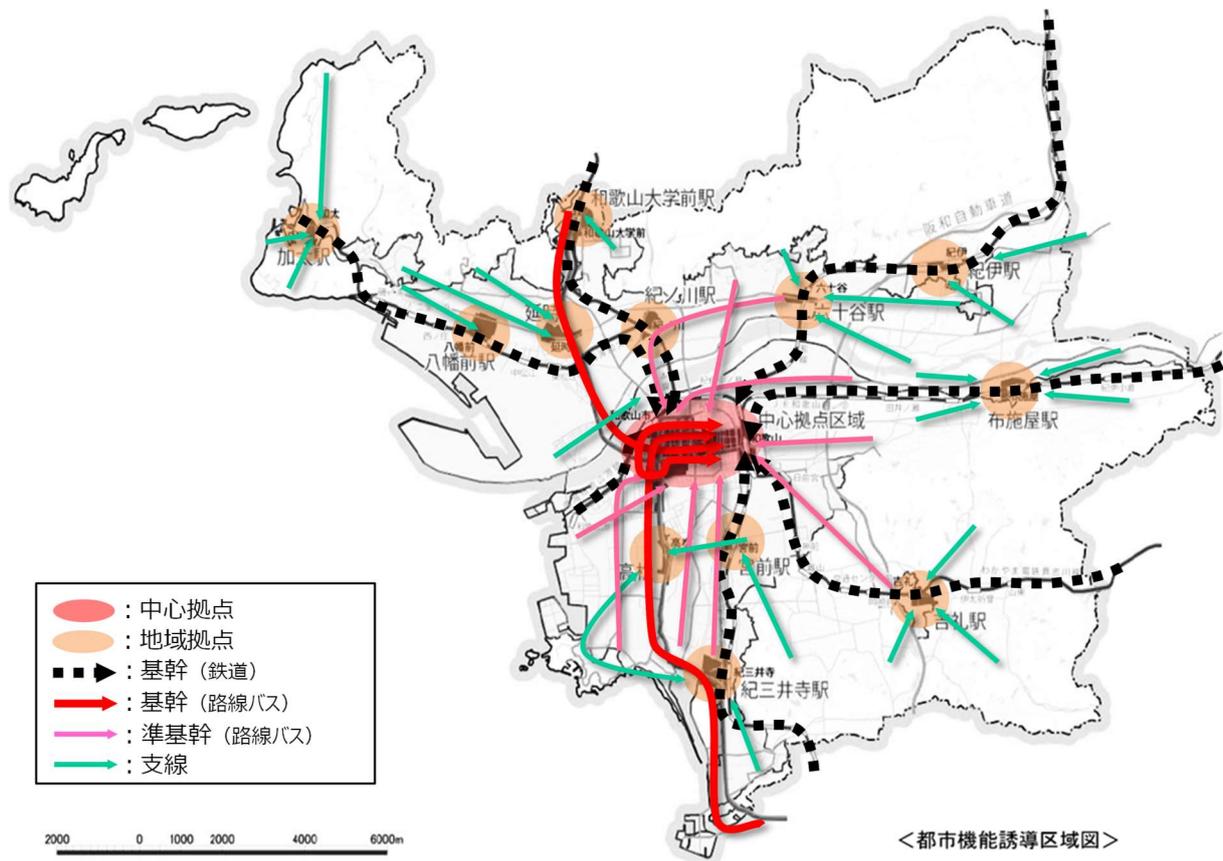


図 4-4 将来的な公共交通網のイメージ

[基幹路線・中心部基幹区間]

- ・鉄道路線及び運行本数が多く、幹となるバス路線を基幹路線とする。なお、鉄道基幹は地域外各方面への長距離移動を、バスの基幹路線は地域内の主要な地点間の移動（短中距離）を担うことを基本とする。（地点、ケースによってはこの限りではない）

鉄道基幹：JR 阪和線、紀勢本線、和歌山線、南海本線、加太線、和歌山港線、和歌山電鐵貴志川線

北部基幹：JR 和歌山駅～和歌山大学方面

南部基幹：JR 和歌山駅、南海和歌山市駅～医大病院、和歌山マリーナシティ方面

- ・また、中心部で特に運行本数が多く、移動、周遊の円滑化を図る区間を中心部基幹区間とする。

中心部基幹区間：JR 和歌山駅～南海和歌山市駅、JR 和歌山駅～県庁

- ・これらにより、ネットワーク全体の明確化や効率化につなげるとともに、利用の多い中心部内での移動に利用できる路線の認知を向上させる。

▼バス路線のうち基幹のイメージ（基幹路線、中心部基幹区間）

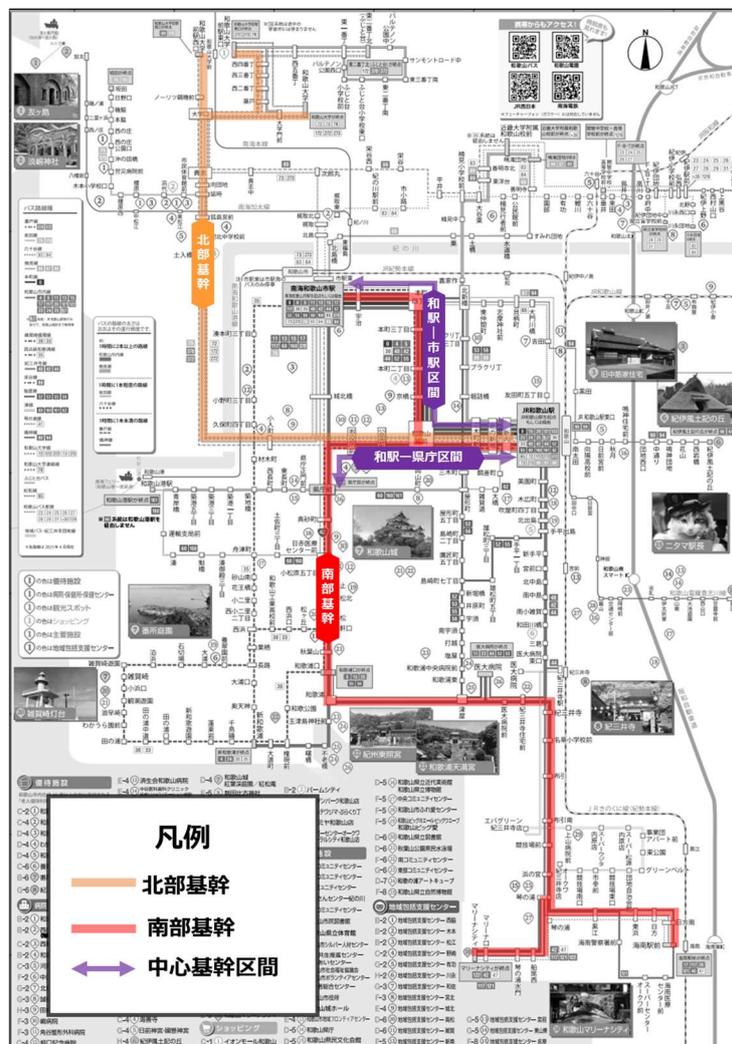


図 4-5 市内基幹路線と中心部基幹区間